



未来をつかむプロセス化学

日本プロセス化学会会長 富岡 清 Kiyoshi Tomioka
同志社女子大学薬学部 教授 京都大学 名誉教授

平成 24 年 8 月吉日



プロセス化学とそれを取り巻く科学と技術に携わっておいでの皆さま方に敬意を表します。平成 22 年 7 月 17 日から会長を務めさせていただき早 2 年が過ぎました。非力ではございますが皆様方のお力添えの賜物でお役目を務めさせて頂いております。

副会長各位には、会則事業ごとのご担当をお願いし、肌理細やかで深みのある会員サポートの実現に向けてお働き頂いております。25 名枠の理事におかれましても、会員諸氏のご要望に広く迅速に応えられる体制構築を目指して頂いております。

本学会の主たる事業である日本で唯一のプロセス化学を主題とするサマーシンポジウムとウインターシンポジウムには鴻池敏郎副会長にご掌握願ひ、より少人数でプロセス化学の深みを求めるラウンジ、地区毎のプロセス化学の特徴を生かすフォーラムには左右田茂副会長にお世話を願っています。

昨年 2011 年 8 月 10-12 日(水-金)には、大震災に立ち向かって、佐治木弘尚副会長を組織委員長として国立京都国際会館を会場に第二回国際プロセス化学シンポジウム ISPC2011 を開催頂き、グローバルなプロセス化学の振興に大いに貢献いたしました。

若手とベテランとを問わずプロセスケミストの激励と育成は当会ならではの事業です。JSPC 優秀賞の受賞を目指して多くのプロセス化学の現場からの熱いご発表を受けて、左右田茂副会長を中心に表彰委員会を立ち上げ充実に努めます。

プロセス化学会の動きを迅速に皆様に伝えるべく、ホームページを主体とした広報体制の強化には、佐治木弘尚副会長の手腕によるところ大です。事務局も今年度 2012 年から佐治木副会長のご厚意に甘えております。

日本プロセス化学会の強みは、何に変わっても化学が好きという、プロセス化学の現場に身を置く才気溢れた多くの会員を擁していることです。諸先輩のご尽力のもとに活発な活動をこれまでも展開してまいりましたのはご承知の通りです。これからもプロセス化学徒の皆様と力を合わせて、既存の化学系学会とは一味も二味も異なった、創意と工夫に溢れた取り組みを展開いたします。ご支援ご鞭撻のほど伏してお願い申し上げますとともにプロセス化学の貢献と皆様のご活躍に期待いたします。

富岡清会長の略歴

Kiyoshi Tomioka

昭和 46 年 6 月 東京大学薬学部卒

昭和 51 年 3 月 東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了

米国コロラド州立大学化学科 Al Meyers 研を経て

昭和 53 年 5 月 東京大学薬学部古賀憲司研究室助手

東京大学助教授を経て

平成 4 年 4 月 大阪大学産業科学研究所(理学研究科兼任)教授

平成 8 年 4 月 京都大学薬学部教授

大学院薬学研究科教授、薬学部長・薬学研究科長を経て

平成 22 年 4 月 京都大学名誉教授

平成 22 年 4 月 同志社女子大学薬学部 創薬有機化学研究室 教授

日本薬学会賞 2003

サントリー生物有機科学研究所理事、日本薬学会副会頭 2011、日本薬学会近畿支部長 2010、The International Society of Heterocyclic Chemistry Director 2006-2007、科学技術教育協会顧問、FJS 日仏医薬精密化学会議議長、Chemical & Pharmaceutical Bulletin Editor 1999-2003, Letters in Organic Chemistry Regional Editor 2006-2007, Heterocycles Honorary Advisory Board, ACS Medicinal Chemistry Letters Editorial Advisory Board, Tetrahedron and Tetrahedron Letters Consulting Board of Editors, Tetrahedron Editor